



未来志創



よっしゃ！顔晴ろう！

木桶の理論

千里の道も1歩から！

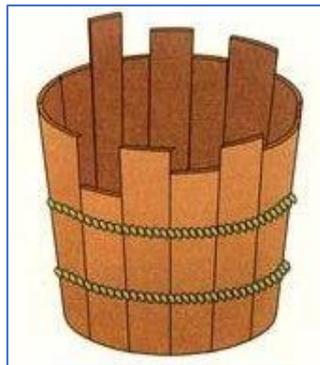
今はただただ欠点を直せ！

これも、昨日紹介した蔵本さんから教わった話です。

「木桶」ってわかりますか？

こんなもの(→)です。

「立て板」と呼ばれる板で形をつくり、「たが」と呼ばれる、竹を割いて、編んで輪にしたもので締めます。



皆さんがよく知っている言葉だと「たがが外れる」という言葉があります。これは、桶を締めている「たが」が外れてしまうと、「立て板」がバラバラになってしまうことから、「緊張を解いて、羽目を外す」「それまでの秩序が失われる」といった意味があります。

さて、今回の「木桶の理論」は、もとは栄養学の理論だそうです。「食事の量を取らないと、大きくならないし、体力もつかない」「食事に好き嫌いがあると、能力が伸びなくなる」といったように使われていた、とのこと。

さて、今回の「木桶の理論」は、もとは栄養学の理論だそうです。「食事の量を取らないと、大きくならないし、体力もつかない」「食事に好き嫌いがあると、能力が伸びなくなる」といったように使われていた、とのこと。

この木桶の理論を人にあてはめて考えてみるとどうなるでしょうか。一枚一枚の「立て板」は「各能力の要素（素直さ、体力、礼儀、努力など）」です。さて、大きな器にするためには「立て板=各能力」を伸ばさないといけません。そして、その木桶の中に水を注ぎこむのです。このときに大切なことがあります。それは、「水が入る高さ=立て板の中で最も短いもの高さ」であるということです。つまり、どんなに高い立て板が数枚あっても、短い板が一枚でもあれば、そこから水がこぼれてしまうということです。また、どんなに長い立て板を合わせても、「たが」でしっかり締めないと、隙間から水がもれてしまいます。

この「木桶の理論」から分かることは何でしょうか。それは、「欠点を克服せよ」ということです。もちろん、これがすべてではありませんが、長所を伸ばすことと同時に、「最短の立て板=欠点」を少しでも長くする努力も大切なかもしれませんね。

